

藪田漁港(氷見市管理・第1種)



- 漁港の所在地 氷見市藪田
- 漁港の指定 昭和26年12月13日 農林省告示第447号
- 漁港管理者の指定 昭和39年7月18日 富山県告示第531号
- 沿革

(泊地区)

泊地区は丘陵が海に迫って断崖が多く、ところどころ入江に沿って集落がある。住民の海への関心は強く、釣に網に古くから活動していた。50mの捨石積突堤をつくり船溜としたが、潮流の関係で砂がたまって水深が浅く、明治40年代に始まる大敷網の時代になると広い砂浜を利用して大敷網の作業が行われた。昭和9年に東防波堤が築造され、水深も増したので、大敷網の網船もまもなくここを基地とするようになった。

その後、局部改良事業により東防波堤の高上げ、物揚場、沖防波堤の整備など、第8次整備計画までに、漁港としての形態が整った。第9次整備計画では、漁港を拡張することとし、泊地、漁港施設用地の確保に加え、漁港環境用地及び漁港再開発施設用地の造成を行った。また、埋込に伴い、サザエの良好な増殖場であった藻場が消失するため、「自然調和型漁港づくり推進事業」として、資源増殖機能を付加した護岸整備を行った。

平成14年以降の新第1～2次漁港漁場整備長期計画では、地域水産物供給基盤整備事業により臨港道路や漁港施設用地の整備を行った。また、つくり育てる漁業を支援するため、自然石投石による藻場造成を行った。

背後集落の藪田地区、泊地区においては、生活環境の改善を図るため平成4年より漁業集落環境整備事業により漁場集落排水施設の整備を行い、平成10年に供用している。

(藪田地区)

藪田地区は、鯨ヶ崎の丘陵によって、北東の烈風が防がれ、古来からよい船溜となっていた。昭和8～9年に、角船で運んできた百貫石で従来の突堤を補強修築し、延長90mの堤防とした。昭和28年に大災害を受けたので、昭和28～31年に現在の東防波堤が築造され、従来の石積のものはこの外側消波工として利用された。昭和38年に東防波堤と護岸工事、第4～6次整備計画では局部改良事業として東防波堤の改良、西防波堤の整備、第7～8次整備計画では改修事業で西防波堤の延伸、物揚場の整備、漁港施設用地の造成を行い、漁港としての形態が整った。